

特定非営利活動法人 わっか
2019年度 月次報告書

2020年
3月

だれもがまるごと
受けとめられる
社会をつくる



NPO法人 わっか

vision

だれもが、まるごと受けとめられる社会

わっかは、だれもが、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは「思うがまま」に過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、さらには、地域社会においても、その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り仲間も時間も空間もなくなりつつあります。私たちは、まるごと受けとめられる場づくりをしたいという思いで居場所づくり事業 や 出会いと学びを育む事業 などを行っています。

事業内容

1

居場所づくり事業

月ようわっか 日ようわっか Waccafe のっぱらわっか

2

出会いと学びを育む事業

寺子屋わっか、こどもの夢中全力サポート事業、講演会
若者の生活・就労支援

3

放課後児童クラブ事業

さかっこクラブ

月ようわっか
毎週月よう日
15:30~20:00

のべ人数

こども **81** 名 (**59** 名) 大人 **14** 名 (**0** 名)

※ () 内の人数はご飯を食べた方 (もち帰りも含む)

毎週月よう日の放課後に必ずひらかれる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

2日 こども **14** 名 (**9** 名) 大人 **4** 名 (**0** 名)

メニュー：ごはん、しめじと大根の味噌汁、鶏のからあげ、ポテトサラダ

9日 こども **19** 名 (**10** 名) 大人 **2** 名 (**0** 名)

メニュー：ごはん、とうふと油揚げとえのきの味噌汁、ピーマンとちくわの炒め物、ジャガイモとさつま揚げの煮物

16日 こども **15** 名 (**11** 名) 大人 **2** 名 (**0** 名)

メニュー：ごはん、ネギとしめじと油揚げの味噌汁、れんこんきんぴら、キャベツとじゃがいものミートソース和え

23日 こども **19** 名 (**15** 名) 大人 **3** 名 (**0** 名)

メニュー：ごはん、いわしフライ、水菜のしめじ炒め、豆腐とわかめの味噌汁

30日 こども **14** 名 (**14** 名) 大人 **3** 名 (**0** 名)

メニュー：ごはん、豚汁、白身魚のフライ、小松菜のじゃこあえ

▼番外編 月曜日の人数が多すぎて、ゆっくりできないという声にこたえて、金曜日もひっそりと開けるようになりました (17:30 ~ 20:00)

6日 こども **8** 名 大人 **3** 名 13日 こども **8** 名 大人 **2** 名

27日 こども **2** 名 大人 **1** 名



わっかのごはんを「まあい食堂」として毎週つくり続けて3年目になります

何年も来てくれていてごはんも食べてくれている子
ごはんは食べないけど何年も来てくれている子
時々食べる子 色んな子どもがいる中で
いつもは17時には帰らないといけなくてごはんが食べられずにいた子が
ある日19時まで居てもいいよとお家の方からオーケーをもらったそうで
「今日はごはん食べるから!」「遅くまで居れるから!」
と嬉しそうに何度も言ってくれました

そして、いざご飯を食べるとなると少し緊張していたのか
慣れてごはんを取っていく子ども達の流れにのれていない様子…

「ご飯これぐらいにする?」「お箸はここからとってね」「お味噌汁はい、どうぞ」
と、渡すとみんなと食卓をかこんで嬉しそうに食べだしました
その様子を見ていた最近の常連くんが
「なんか、あすかお母さんみたいやん」と、言ってくすと

すると前々からの常連くんが
「あすかはわっかのお母さんじゃん」という返し
最近常連くん「えー、そうなんー」

前々常連くん
「本当のお母さんって意味じゃないけど、わっかに来たらここではあすかがお母さんなんやで」
「なあ?(他の周りの子に聞く)」

「(周りの子)あー、うんうん」

最近常連くん「えー、知らなかったわ」

前々常連くん「おぼえておきやー」

最近常連くんは少し、からかいたかったのが前々常連くんの
大真面目な返しに納得せざるを得なくなってしまうようで…

わっかのお母さんしてるよー！
なんて一言も言ったことはないのですがそんな風を感じてもらっているんだな、と
心があたたかく、嬉しくなりました

日ようわっか
10:00~15:00

こども 19 名 大人 6 名

メニュー：カレー



寺子屋わっか 毎週水曜日 18:30 ~ 20:00

11、18、25日 のべ18名

「テレビの音も周りもうるさすぎる！」 「宿題する場所がほしい！」 大人数兄弟の子が声を上げた事から
はじめた寺子屋わっか。小学生から中学生の子ども達がスタッフと一緒に学習しています。

学校一斉休校にともなう臨時の古民家開放

10:00 ~ 13:00 のべ13日 92名

3 (火)、6 (金)、9 (月)、10 (火)、11 (水)、12 (木)、13 (金)

16 (月)、17 (火)、18 (水)、19 (木)、23 (月)、24日 (火)

■ 実施の経緯

「学校休校になり、息子たち2人が学童保育にも預けていないので、1日家で過ごすことになる。」
「家から出ないように言っているから1日中ゲームをするのだろうけど、外出するよりいいかな。」
「ただ、1日子どもたちにしてているのも不安だから、わっかが開いていたら嬉しいな。」
わっかに、今までも来ていた子の保護者の声に応える形で、はじめました。Covid-19 予防対策としては
換気、手洗いなどを行いました。

■ 結果

わっかに自転車で来ることができる距離にいる、一人で過ごす子どもたちが、毎日約7名来てくれました。
「はじめまして」の子どもも4名いて最初は、緊張してあまり喋らなかった子が、慣れてくるうちに
「ふりかどー」と呼び捨てにしてくれるようになりました。そういう関係を臨時の開放でしたが、築けた
ことがよかったです。また、保護者からは「不安がすこし和らいだ」との言葉ももらいました。



2018年4月より米原市放課後児童クラブを 受託しています。

新型コロナウイルスの影響により、感染拡大防止の観点から、米原市では、受入れ対象児童を限定しています。受入れ対象となっているのは、1・2年生の児童及び医療従事者の家庭と特別支援級在籍の児童のみとなっています。

そのため、現在、利用している児童は10人～15人程度、通常の3分の1程です。受入れに対して、様々な感染症対策を実施しながら受入れを行っています。ですが、私たちが大切にしていることは、子ども達がいかに日常に近い形で過ごすことができるかです。

この緊急事態に、大人ですら疲弊してくる状況の中で、子ども達はより様々なことを感じ取り、大人以上にストレスをため込んでいきます。だからこそ、これまで通り、目一杯遊んで、はしゃいで、ただ過ごす時間を大切にしています。

なので、いわゆるソーシャルディスタンスについて強く指導することはありません。子どもは、その距離によって、最も安心感を得るからです。それすら、奪い取ってしまうのは、大人達が「命のため」と大義名分を振りかざして、子ども達の心をなおざりしてしまう行為です。

この事態に生き残って、体はあっても、心が死んでしまっは元も子もありません。みなさんは、どう思われますか？命だけを守ることが本当に正しいのでしょうか。



佐藤さんは、だいのすけの用務員をしてくれたのに
日本の中心に行ってしまった人です。

1980年代の管理教育全盛期から90年代のゆとり教育への転換、そして現在までの混迷と、学校を取り巻く諸課題は常に私たちにつきまってきました。そして、学校という場は、一貫して否応なしに競争にさらされる場でもあり、そこに適応できない子どもは学校から排除されてきました。

その一方で、フリースクールの運動や、わかを始めた各地で行われている「居場所」づくりは、学校のオルタナティブとしての場づくりではなく、競争社会にさらされない全人をつつむ場として子どもの捉え、共に過ごしてきました。そこは、できる/できないではなく、そこにいるだけで大丈夫であるという存在自体の受容と肯定感がもたらされる場です。こうした自己に対する存在論的安心の基盤は、誰にも審判されない場でもあり、自己に対することだけでなく、他者や社会への安心感へと繋がっていきます。また、そうした「安心できる場」があることは、心理的な基盤ともなり、換言すれば「戻ってくることができる場」ともいえるものです。このような場は、従来は家庭が担ってきた側面もありますが、社会構造や世帯構成の変化により、こうした意図的に作られた「居場所」が必要になってきています。それは、存在の根底的承認というだけでなく、生きていく土台を確保する場にもなりえるともいえます。

そして、私たち「居場所」の周辺でうろろうとしている大人は、子どもたちが社会とつながっていくためのいろいろな回路を用意しておくことが大切です。居場所は、子どもを包み込みながら、社会との接続をしていく場でもあり、大人が多様な回路を持っているということは、そこに寄り集まう子どもや若者たちが自分自身で「どのように生きていきたいか」を獲得する人生選択において、多様な示唆をすることができるでしょう。わかはこのこれからも地道な活動を続けていくとは思いますが、他者と共につくりあげる場でもありますから、私たちはみなさんの参加をお待ちしています。

佐藤真紀さんのプロフィール

現場から現代社会を思考する/ソーシャルワーカー(精神保健福祉士|社会福祉士)/非営利法人の理事/大学院生/JYCフォーラム/地域:東京,岐阜,滋賀/領域:地方自治,若者,子ども,虐待,ひきこもり,生活困窮,学校,女性,LGBTQ/元 SSWer

みなさまからの
寄付など

わっかが、古民家を『参加費無料』で開放できるのは、
みなさんのご寄付やご助成による支えによります。
2020年3月にいただいたご寄付、ご支援とマンスリーサポーターの方
2020年度の助成団体さまのご紹介させていただきます。

3月にいただいた物品でのご寄付（敬称略）<>内の方から頂きました

お米、調味料など <滋賀県社会福祉協議会>	お菓子 < わっかの常連 >
--------------------------	-------------------

マンスリーサポーター（定額寄付会員） 14名（敬称略）

大溪 麻紀子	福地 真路	後藤 基志
マコトヤ	佐藤 真紀	佐藤 桃子
廣部 奈緒美	前田 諭	藤澤 彰祐
石田 智子	佐藤 笑代	

氏名の掲載をご許可いただいた方のみ掲載しております

2020年度 助成団体（敬称略）2020.4.30現在

米原市役所 	独立行政法人 福祉医療機構 	米原市社会福祉協議会 
全国食支援活動協力会 	SOCIAL SHIP2019	真如苑

寄付者の声

行ける日がなかなか作れないのですが、ひとまずお金で応援させてください。
わっかが、今まで通り、みんなの安心できる場所でありますように。



団体名	特定非営利活動法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178 番地 5
電話	070-1803-1059 (代表)
メール	wacca235@gmail.com

ホームページ



FB ページ



のびとあすかの思いについて知りたい方は、Ameblo へ



note では、だいのすけが、わっかですごく日々から感じたことなどをかいています。



You Tube では、わっかの様子を動画で見ただけです。

